

努力賞

人のために

荒川区立第六日暮里小学校六年

中村 直道

ぼくは、第六日暮里小学校の中村直道です。ぼくは、先生の紹介で、「おおきな木」を読みました。

この絵本には、りんごの木と、男の人がでてきます。子どものころは、りんごの木と、男の子がよく遊んでいたけれど、大人になるにつれどんどん遊ばなくなります。たまにくると、男の子はわがままをいいます。でも、りんごの木は、りんごを全部わたしたり、枝を切ってあげたりするなど、自分をぎせいにしながら男の子を助けます。

ぼくは、野球をやっています。野球にも、バントという自分をぎせいにし、ランナーを進めると

いう作戦があります。ぼくは、このバントをやリ、得点に結びついたことがあります。その時は、やってよかったという、うれしい気持ちになりました。自分が得点したわけではないけれど、自分がバントをすれば、チームに得点が入るからです。柳田先生は、自分をぎせいにし、他の人を助けたことはありますか。もし、よかったらおしえてください。